

まちづくり交付金 事後評価シート
立待地区

平成24年3月

福井県鯖江市

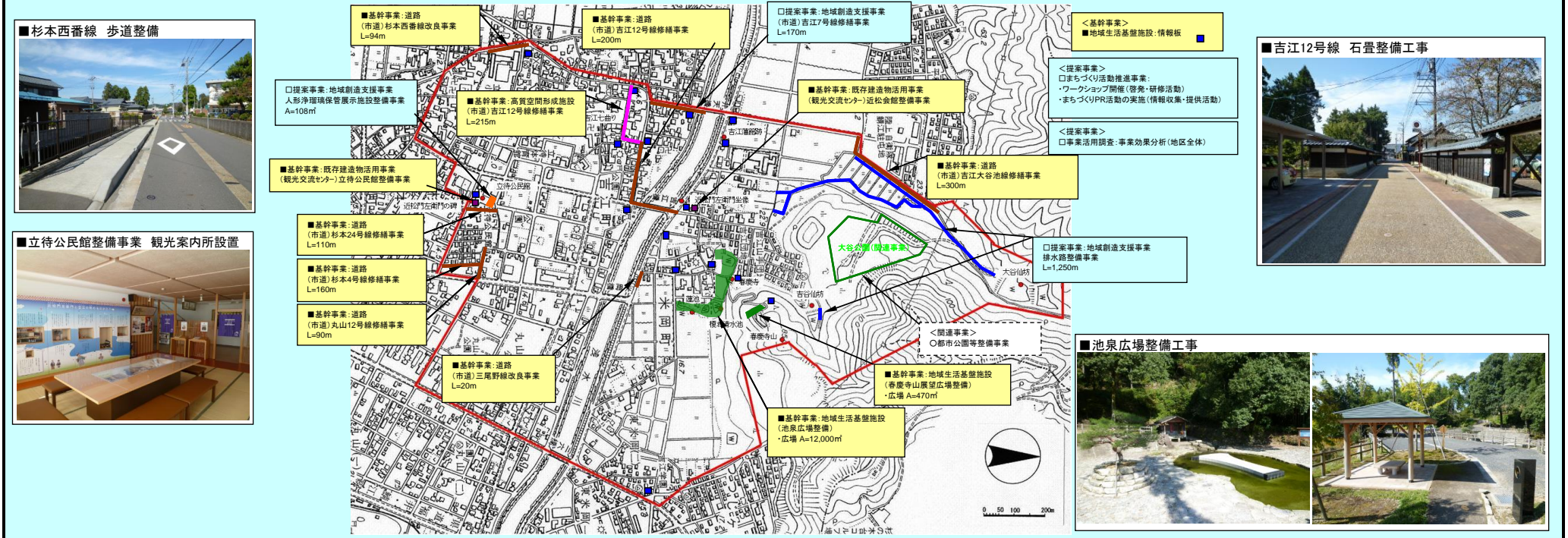
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福井県		市町村名	鯖江市		地区名	立待地区			面積	130ha	
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	300百万円	国費率	0.394			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
			基幹事業	道路(杉本24号線他7路線)、地域生活基盤施設(池泉広場他2ヶ所)、高質空間形成施設(吉江12号線他1ヶ所)								
	新たに追加した事業		事業名									
			基幹事業	道路(吉江団地7号線他3路線)			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	交付期間の変更		当初	平成19年度～平成23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
			変更	-								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	観光客入込人数	人/年	7,000	H17	10,000	H23	8,280	△	あり なし ●	入込数は着実に増加しているものの、広場や道路等の整備が途中段階であったため、目標値までの入込を得ることができなかった。	平成25年4月
	指標2	地域イベントの頻度	回/年	2	H17	4	H23	7	○	あり なし	まちづくりへの市民参加意欲が増進し、市民が企画実施するイベントの回数が増えた	平成25年4月
	指標3									あり なし		
	指標4									あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1	人形浄瑠璃「近松座」上演回数	回/年	17	H19		29			地区住民の人形浄瑠璃への関心が高まり、参加者及び上演依頼の増加が見られた	平成25年4月	
その他の数値指標2	平常時の拠点施設の観光入り込み数	人/年	0	H19		2,627			安全に歩ける道路や観光情報提供拠点整備により、地区の回遊ルートや見所を適切に案内できるようになった	平成25年4月		
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	・歴史景観整備事業の推進等により、地域住民の景観整備意識が啓発され、自主的な清掃活動が見られるようになった。 ・近松の文楽公演を通して立待小学校と大阪の小学校の子供の交流が生まれるなど、近松への関心の高まりや伝統芸能への親しみを通して日本古来のものを大切にす意識高揚が見られた。											
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				なし			
	住民参加プロセス	ワークショップの開催(たちまち近松の里創生事業検討委員会)			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● たちまち近松の里創生事業検討委員会など地元で組織する団体が地区住民と行政との間に立ち、住民の視点で決め細やかな情報の提供、意見の収集に努める。			
持続的なまちづくり体制の構築	立待地区の歴史、文化の普及啓発			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 市とたちまち近松の里創生事業検討委員会等が連携した活動を継続し、地区の歴史伝承のための積極的なPRに努め、近松の里として盛り上がりを見せる地域住民の機運を持続させる				

様式2-2 地区の概要

立待地区(福井県鯖江市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 豊かな自然にまつまれる魅力と、人と歴史が見えるまち「近松の里」づくり	観光客入込み数 単位: 人/年	7,000 H17	10,000 H23	8,280 H22
目標1: 川や山へ足を運びたいくなるような安全で快適な歩行ネットワークの構築と自然とのふれあい拠点整備により生活環境を改善する	地域イベントの頻度 単位: 回/年	2 H17	4 H23	7 H22
目標2: 吉江藩や近松門左衛門の歴史文化が薫る景観の質的向上と来訪者の利便性向上により観光客を誘致する	人形浄瑠璃「近松座」上演回数 単位: 回/年	17 H19	—	29 H22
目標3: 地域住民が中心となって歴史・文化を継承する機運を高め、地区内外の交流を活発にする	平常時の拠点施設の観光入り込み数 単位: 人/年	0 H19	—	2,627 H22



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の歩行ネットワークや歴史文化に関する情報発信施設が整備されたことで、安心して暮らせる生活環境や歴史探訪の地としての魅力充実したが、市の中心市街地やJRなどの広域交通拠点と立待地区までの誘導案内の充実が必要となった。 ・地区イベントの企画運営を通じて住民の近松の里づくりに対する機運が高まり、浅水川で遠のいていた地域コミュニティの一体感が生まれた。大谷公園のH25年度完成にあわせ、更なる機運の持続と新たな施設の活用方法の検討が必要である。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な歩行者を想定した通行モラルの向上のための講習会やPR事業等を推進して、整備された歩行ネットワークの機能を維持保全していく。 ・市が地区イベントの後方支援や近松関連の全国的な交流促進を継続して行い、全国的なPRや交流の促進を積極的に図っていく。 ・市内の他地区の拠点施設等との連携強化により、「近松のまち鯖江」のPRやイベント開催を市全体で取り組み、全国的にPRする。 ・コミュニティバスの利便性向上やレンタサイクルや自転車移動経路の案内などを行い、地区内ローカルネットワークと広域ネットワークの結束を図り、生活や観光の利便性を向上する。 ・環境美化活動の啓発や語り部人材の育成などを通して地区住民のホスピタリティを醸成するとともに、パンフレット配布や講習会の開催などにより、来街者と地区住民のとの軋轢を発生させないためのルールについて話し合う場を設け、住民が観光客を迎え入れる機運を高める。